

社説

ronsetu@mainichi.co.jp

オピニオン

でいく高校生に感化されて俳句を始めました。五・七・五の音に、日本の四季の移ろい、心の奥底にある思いを込める芸術の深さに触れ、俳句を詠む楽しさに目覚めました。松山と言えば、正岡子規や高浜虚子ら偉大な俳人を輩出した土地柄。「俳句王国」の異名もある通り、俳句愛好者も多く、街中で詠んだ句



岩田 貞美64(主婦・大阪府)

初めて意識した。最近はそのナンバーを読み取り、出庫前にあらかじめナンバーを入力して料金を払う精算システムもあるが、駐車券やお金が入れづらい位置にある精算機では焦ってしまう。今回の事故は駐車場の精算時はもちろんのこと、運転時に決して気を抜かないことを肝に銘じたできごとであった。

められた方々が増えたことから、少し甘い選んだ結果です。「もう5月だから、お盆の句を作らなきゃ」という句が届きましたが、時事句や季節感が大切な作品など、タイミングが重要な句は線り下り掲載をします。先を見越して投稿をする必要はありません。心のままに、興味を持った事象を、どうぞお気軽に詠んでお送りください。
【係から】5月の投稿はがきは1万2210通でした。
◇
5月の一般投書は1409通、ふんすい塔は1071通、カットは99通でした。

医療的ケア児の支援

「センター」生かす体制に

日常的にたんの吸引や人工呼吸器の管理が必要な「医療的ケア児」と家族を支える地域拠点「支援センター」が、今年度中に全都道府県で整備を終える見通しだ。

ケア児は全国に約2万人いるとされ、新生児医療の進歩により、増加傾向にある。センターの設置は2年前に支援法で定められ、40以上の都道府県で開設された。

どこに相談すれば適切な支援を受けられるか分からなかったり、たらい回しにされたりした家族は少なくない。SOSを受け止めるセンターができたことは前進だ。

しかし、課題も残る。まず、退院後の支援体制だ。生後3カ月以内に退院するケー

スも少なくないが、継続的なケアが欠かせない。厚生労働省の調査では約4割の家族が「ケア児から5分以上目を離せない」と回答している。

ケア児のニーズはさまざまだ。希望する支援を受けられるよう、センターは市町村や病院など関係機関間の総台調整にあたる。

その際、福祉サービスなどの支援プランを作成するのがコーディネーターだ。センターとの協力関係の構築がカギを握るが、配置は地域的にばらつきがあり、相互の連携が不十分などところもある。

福祉サービスの提供は、市町村によって差があり、利用条件として障害者認定を受けていることを

求める自治体もある。実施する事業を増やすなど、格差を是正する取り組みが求められる。

通園・通学を希望するケア児は年々増えているが、保育所や学校の受け入れ態勢は、まだ十分とはいえない。

学校への看護師配置などには国の補助金も利用できる。ただ、「前例がない」ことを理由にためらう学校もある。

大阪府豊中市は、教育委員会と市立病院が連携し、医師の指示に従って複数の看護師がケア児のいる学校を巡回している。担当看護師の確保や研修は病院が取り組んでいる。他の自治体でもこうした事例を参考に、受け入れを広げていってほしい。

ケア児と家族が安心して生活できる社会を実現することが重要だ。センターの全国整備は、出発点に過ぎない。有効に機能させる環境を整える必要がある。

ジャニーズが対応策

まずは被害実態の解明を

性暴力は重大な人権侵害だ。被害の実態解明が先ではないか。ジャニーズ事務所が、創業者のジャニー喜多川氏による性加害問題で、対応策を発表した。

まず、事務所に所属していたタレントらを対象とする相談窓口を設置した。外部の専門家らが心の問題をケアするという。

また、ガバナンスの改善を目的に前検事総長ら第三者による再発防止特別チームを作る。今年のワールド・ベースボール・クラシック(WBC)優勝にコーチとして貢献した白井一幸氏ら3人を社外取締役に迎える。

だが、真相を究明しようという姿勢は相変わらず見えてこない。

喜多川氏による性加害疑惑は年にわたって指摘されてきた。004年には、週刊誌報道を巡る民事訴訟で「セクハラに関する要部分は真実」と認める高裁判

が、最高裁で確定した。にもかかわらず、その後、会社としてどのように対応してきたかは不透明なままだ。その時点対策を講じなかったことが被害拡大させたのだとしたら、企業としての責任は大きい。

先月、10代前半に受けた性被害を記者会見で告白した元所属タレントは「事務所には実際あったと事実と認め、被害者への謝と対応を求めたい」と訴えた。

ジャニーズは喜多川氏が故人